

幼稚園創立105周年記念の親子お茶会

1897年創立の同志社幼稚園が今年で105周年を迎え、これを記念して6月20日、親子お茶会が催された。学校法人同志社総長の 大谷 實・大学法学部教授が一日園長を務め、お茶会にも参加、週1回おけいこをしている年長組の園児が、お茶とお菓子でもてなした。



外国文化週間 関西初演の『エオント』が登場

「身体とリズム」というテーマで開催された今年度の同志社大学外国文化週間。6月28日に開かれたコンサートで演奏された、ギリシャ出身のフランスの作曲家ヤニス・クセナキスの代表作『エオント』は、その難しさから関西では今回が初演。ピアノと金管楽器5人が様々に舞台を練り歩き位置を変え、吹く方向を違えて演奏するというパフォーマンスは、200人を超す聴衆を魅了した。



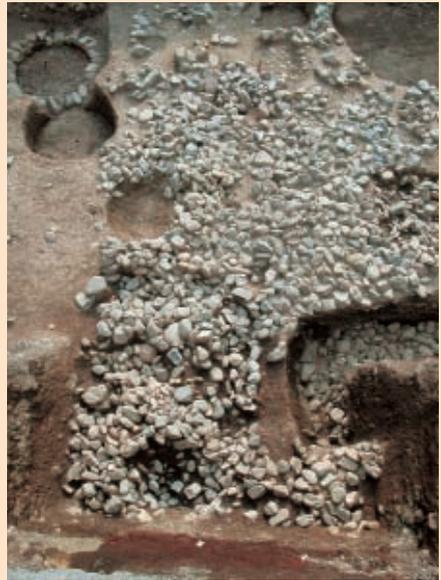
大学新町北別館、大学会館跡地の 埋蔵文化財発掘調査

大学会館、新町ボックス棟改築ならびに新大学会館（仮称）建設工事に伴い、2月12日から発掘調査を行った。調査の結果、新町キャンパスでは室町時代の堀や安土・桃山時代の石列、江戸時代前期から中期の鏡の鑄造工房群が発見された。また大学会館では足利将軍の邸宅である室町殿（花の御所）の遺構と見られる石敷きが見つかり、注目されている。

大学会館地点

会館北地区

烏丸上立売の角に近い調査区から、16世紀前半代と考えられる東西方向の2本の石敷きが見つかった。室町時代後期の京都を描いた上杉家本洛中洛外図屏風によると、この場所は室町幕府11代将軍の足利義晴が造営したとされる室町殿の東北隅にあたり、屏風絵のその場所に南北と西を築地塀で囲まれた鎮守社が描かれている。今回発見された石敷きの配置は、この洛中洛外図屏風の描写と対応する可能性がある。



会館南地区

調査区の北側から16世紀前半代と考えられる根石をもった柱列が見つかった。柱穴の大きさは直径40～60cm、深さ15～25cmで、南北に6.1m以上、東西に5.3m以上続き、板塀などの柱であったものと考えらる。一方上杉家本洛中洛外図をみると、室町殿の敷地の東側で東西から南北方向へL型に曲がった板塀が描かれており、また文献史料にも、庭のある奥御殿の一角を板塀で囲うことについての記述がある。今後詳細な検討が必要であるが、やはり洛中洛外図屏風の描写との関係が注目される。



新町北別館地点

江戸時代の鏡作り工場

上立売通りに面した調査区から、江戸時代の大規模な鏡工房跡が見つかった。中からは土蔵や金属を溶かした炉がならび、鏡の鑄型や坩堝および「稲村備後藤原吉長」の銘の入った柄鏡が見つかった。江戸時代のはじめには、この近くに禁裏御用鏡師の屋敷があり、その関係に関心が寄せられている。



新校舎「清心館」前で

■ 香里中学校が共学に ■

2000年度から香里高等学校国際コースで開始した男女共学。2002年4月からは中学校でも女子の受け入れを開始し、中高あわせて200人あまりの女子生徒が学んでいる。中一専用教員室や、女子更衣室を備えた新校舎「清心館」も完成、着々と中高共学化への対応を進めている。